

やまがた緑環境税に関する県民等の意識（意識調査結果の取りまとめ）

	県政アンケート	個人アンケート	法人アンケート	市町村からの意見聴取	やまがた緑環境税評価・検証委員会の意見	まとめ
調査状況	実施期間：8～9月 調査対象：県内在住者〔18歳以上〕 回答数：1,534名〔回収率61.4%〕 (H27:1,773名〔回収率59.1%〕) (H27)	実施期間：6～12月 調査対象：県内在住者〔20歳以上〕 調査方法：各種イベント来場者等 回答数：1,549名 (H27:2,892名) (H27)	実施期間：6～9月 調査対象：県内地域法人会会員 調査方法：県内企業への郵送による 回答数：584社 (H27:640社) (H27)	開催期間： 回数：各総合支庁で1回 参加者数：35全市町村 (35全市町村)	開催期間：10月14日	
認知度	・負担、趣旨とも知っている 17.4% 24.5% ・負担のみ知っている 16.1% 20.6% 【認知度】 33.5% 45.1% ・負担も趣旨も知らない 64.4% 52.8%	・負担、趣旨とも知っている 38.9% 36.1% ・負担のみ知っている 20.7% 19.7% 【認知度】 59.6% 55.8% ・負担も趣旨も知らない 39.3% 43.6%	・負担、趣旨とも知っている 47.8% 44.7% ・負担のみ知っている 15.4% 17.3% 【認知度】 63.2% 62.0% ・負担も趣旨も知らない 36.1% 37.7%		・取組みの継続が必要。 ・各イベントを通じて広く周知するなど広報をより強化すべき。 ・認知度の低い年齢層に絞って広報媒体を検討すべき。	・県政アンケートでは約7割、個人アンケートでは半数以上、企業の約4割が、やまがた緑環境税を認知していない。 ・特に、10代からの若年層と40代の中年層、女性の認知度が低い。
事業の認知度	【認知度上位5県】群馬県 39.4% (層化二段無島根県 37.5% 作為抽出法) 山形県 33.5% 滋賀県 26.9% 和歌山県 25.4%	《上位3項目》 ①森や自然環境とのふれ合いの機会の拡大 30.5% 27.2% ②病害虫等で荒れた里山林の再生 26.8% 27.0% ③未利用木材の有効利用 26.3% 25.6% ○わからない 38.3% 37.5%	《上位3項目》 ①病害虫等で荒れた里山林の再生 36.1% 31.7% ②未利用材をバイオマス燃料として有効利用 32.2% 27.3% ③公益機能の高い森林を育成 28.8% 24.4% ○わからない 42.3% 41.6%			・県民、企業の約4割から、事業の使い道が認知されていない。 ・身近な取組みに対する認知度が比較的高い。
取組みの価値	・賛成 55.6% 56.7% ・どちらかといえば賛成 25.1% 25.6% 【賛成】 80.7% 82.3% ・反対 1.2% 0.6% ・どちらかといえば反対 1.1% 0.6%	・賛成 51.7% 48.1% ・どちらかといえば賛成 30.1% 31.3% 【賛成】 81.8% 79.4% ・反対 0.5% 1.6% ・どちらかといえば反対 0.7% 1.7%	・賛成 52.2% 47.7% ・どちらかといえば賛成 28.3% 29.1% 【賛成】 80.5% 76.8% ・反対 1.7% 2.5% ・どちらかといえば反対 1.7% 2.7%	・ 荒廃森林の解消が進んでいる。	・ 荒廃森林は環境・資源の損出、被害の増加につながるため取組みは評価できる。	・ 県民、企業の約8割がこれまでの事業内容に賛成している。
税の継続	・賛成 49.1% 49.6% ・どちらかといえば賛成 26.3% 25.9% 【賛成】 75.4% 75.5% ・反対 1.9% 1.0% ・どちらかといえば反対 1.5% 0.9%	・賛成 49.1% 49.6% ・どちらかといえば賛成 26.3% 25.9% 【賛成】 75.4% 75.5% ・反対 1.9% 1.0% ・どちらかといえば反対 1.5% 0.9%	・賛成 52.2% 47.7% ・どちらかといえば賛成 28.3% 29.1% 【賛成】 80.5% 76.8% ・反対 1.7% 2.5% ・どちらかといえば反対 1.7% 2.7%	・ 県内30市町村がハード事業の継続は必要と回答。 ・ 県内32市町村がソフト事業の継続は必要と回答。 ・ 依然として整備が必要な森林が数多く存在し、森林環境譲与税だけで整備を進めることは困難であり、やまがた緑環境税と合わせた整備が必要。	・ 県が主体となって行うべき荒廃森林は12万ha残っており、まだまだ整備していく必要があり継続すべきである。 ・ 荒廃森林の整備は計画的に進んでいるが、未だ多くの荒廃森林があり、引続き計画的な整備を進める必要がある。	・ 県内の30市町村のほか、県民、企業の約8割が、やまがた緑環境税の継続に賛成している。 ・ 荒廃森林の整備は計画的に進んでいるが、未だ多くの荒廃森林があり、引続き計画的な整備を進める必要がある。
税額	・適正 58.2% 57.1% ・安い 5.4% 5.1% ・高い 9.9% 9.0% ○わからない 19.6% 21.8%	・適正 48.1% 47.2% ・安い 3.4% 2.3% ・高い 8.4% 10.3% ○わからない 39.6% 38.9%	・適正 48.1% 47.2% ・安い 3.4% 2.3% ・高い 8.4% 10.3% ○わからない 39.6% 38.9%	・ 県内23の市町村が現状のままで良いと回答。		・ 約6割の県民、約5割の企業、約7割の市町村が現在の税額に賛成している。 ・ 現在の税額を高いと感じている県民、企業は約1割と少ない。
森林待のす働き	《上位3項目》 ①荒廃森林を一元管理する仕組みづくり 45.4% 49.9% ②荒廃森林を、環境保全機能の高い森林へ再生 42.1% 47.6% ③未利用木材を熱エネルギー源などに有効活用 29.3% 37.7%	《上位5項目》 ①災害を防止する働き 65.1% 58.3% ②地球温暖化防止の働き 45.1% 39.9% ③水資源を蓄える働き 33.9% 33.1% ④教育の場としての働き 24.3% 23.6% ⑤癒しの場としての働き 22.9% 19.0%	《上位5項目》 ①災害を防止する働き 80.3% 68.4% ②地球温暖化防止の働き 61.6% 52.7% ③水資源を蓄える働き 50.7% 52.2% ④野生動植物の生息の場 21.9% 19.4% ⑤木材を生産する働き 18.2% 23.8%			・ 県民の約半数が、荒廃森林の整備を重要な取組みと認識している。 ・ 県民の約7割、企業の約8割が災害防止機能を森林の重要な働きと認識している。
参加した活動	《上位3項目》 ①森林に親しみ、その働きを学びたい 23.3% 33.3% ②県産木材の活用に協力したい 21.9% 27.5% ③自然環境教育などのボランティア活動に協力したい 9.1% 13.6%	《上位4項目》 ①森林浴による心身の気分転換 43.3% 45.1% ②県産木材資源の活用 29.8% 29.9% ③山の恵み・大切さを実感 25.7% 28.7% ④身近で安心な森林で親しみ学びたい 24.1% 26.6%	《上位4項目》 ①森林浴による心身の気分転換 45.2% 43.6% ②県産木材資源の活用 34.1% 35.5% ③身近で安心な森林で親しみ学びたい 26.9% 29.4% ④山の恵み・大切さを実感 25.3% 26.1%			・ 県民、企業の5割弱が、森林浴により心身の気分転換を図りたいと考えている。 ・ 次いで、県産木材の利活用に協力したい、身近な森林で親しみ学びたいと考えている人が多い。